



春乃代
 便乃體
 八丈坊
 春

Gōkan: (No. 01) 3701
 Kanayomi Hakk
 Part 1. Book 1

~ 13
 1





國芳画



編



初編下

國芳画



加ねとみ八犬傳

編

初編下



曾聞里見八犬傳の曲叟巴ウリ是張のりし。生涯の筆好りとて蓋
 今昔は小説家夥の稗史とほどもなれども。みれば此右ふやうな事ありし。
 奪ふ友人何某あるもの竊ふ僕に哄誘へ八犬傳を草雙紙なり。
 直し多見て六やうとある。茶利ゆりふ舌輕か。其の口車はのり
 来て。承諾らまれとやうな筆。本傳は本傳二百六巻。今合巻に
 綴らんぬ。右処に縮免。左処を省死其大際。筆は多編。半ハ画
 張の是を。是を。只面影。寫し。骨を失ふ。其のり。多ん。彼我
 此巧拙。其の差別ある。看官を。勤察し。但本傳の報條
 あり。と見あ。の。於腹を。立。這。一時の戯れ。あり。

弘化五年戊申春正月吉且

ハナ作不系

金碗八郎

孝吉

里見

治部大輔

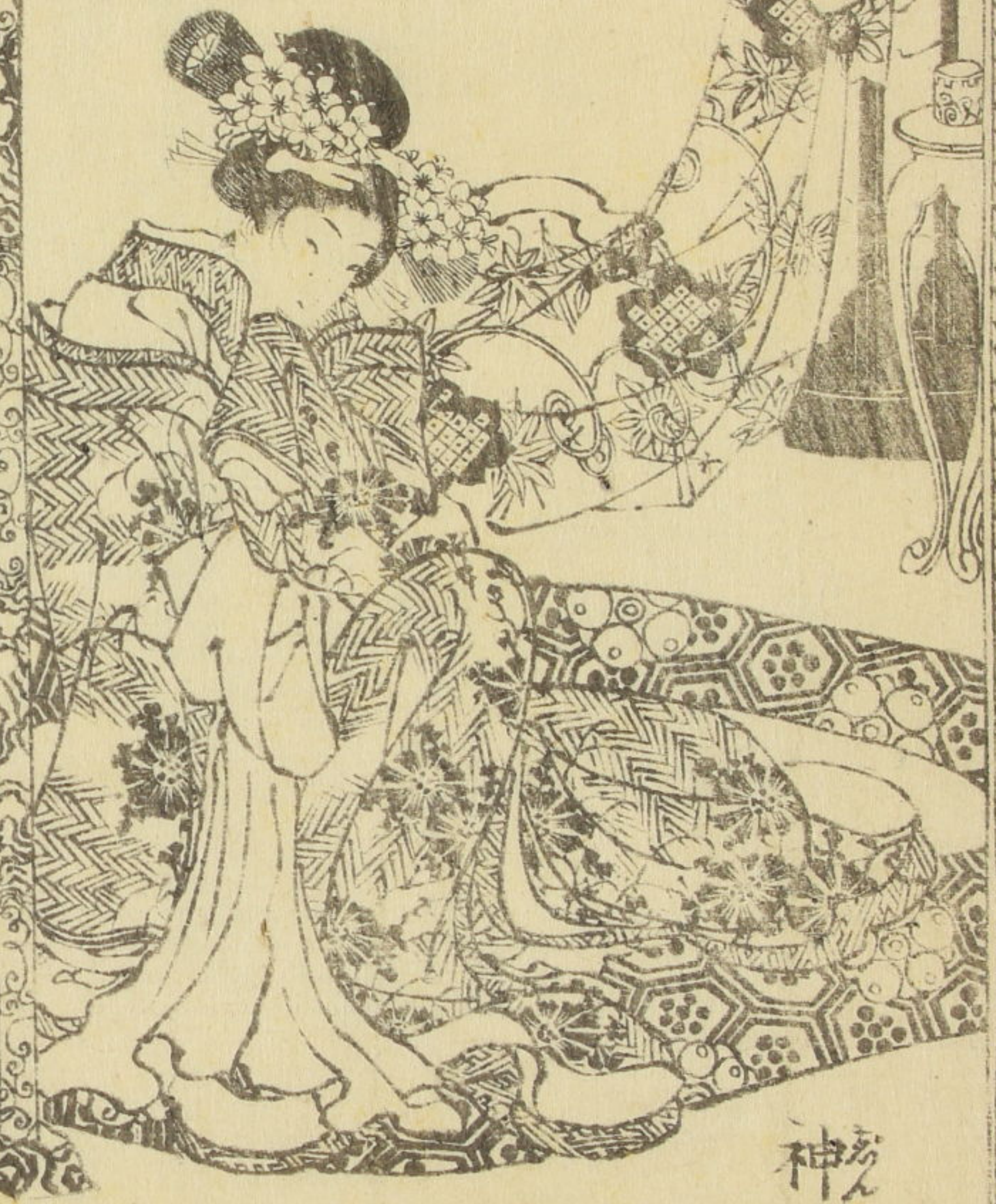
義實

A woodblock print illustration from a Japanese book, showing three figures in traditional attire. On the left, a woman in a patterned kimono stands. In the center, a man in armor with a sword on his back stands. On the right, another man in a kimono is kneeling. Two birds are flying in the upper left. The scene is framed by a decorative border.

一作 虎女 小菰



山下 衛門 左
定 包 尉 門 左



神 長 光 玉 壁 妻 梓
神 長 光 玉 壁 妻 梓
神 長 光 玉 壁 妻 梓



父本千基ハ
 陣歿る一
 受実のり多
 せも小死ると覚
 悟成疾り一と
 父が最期の言話を
 承り老黨杉倉
 木曾助氏元堀内
 藏人貞行と
 主従つらう
 三人中敵の
 陣に破れ
 三浦がさた
 船のり
 漕のり浪や
 さらの安房を
 ぞむのむね



善哉實中居方に漢
 語の白龍天不
 昇ること本傳ふ
 りれども此書に
 黙し但その圖に
 はみ愛はむとせ

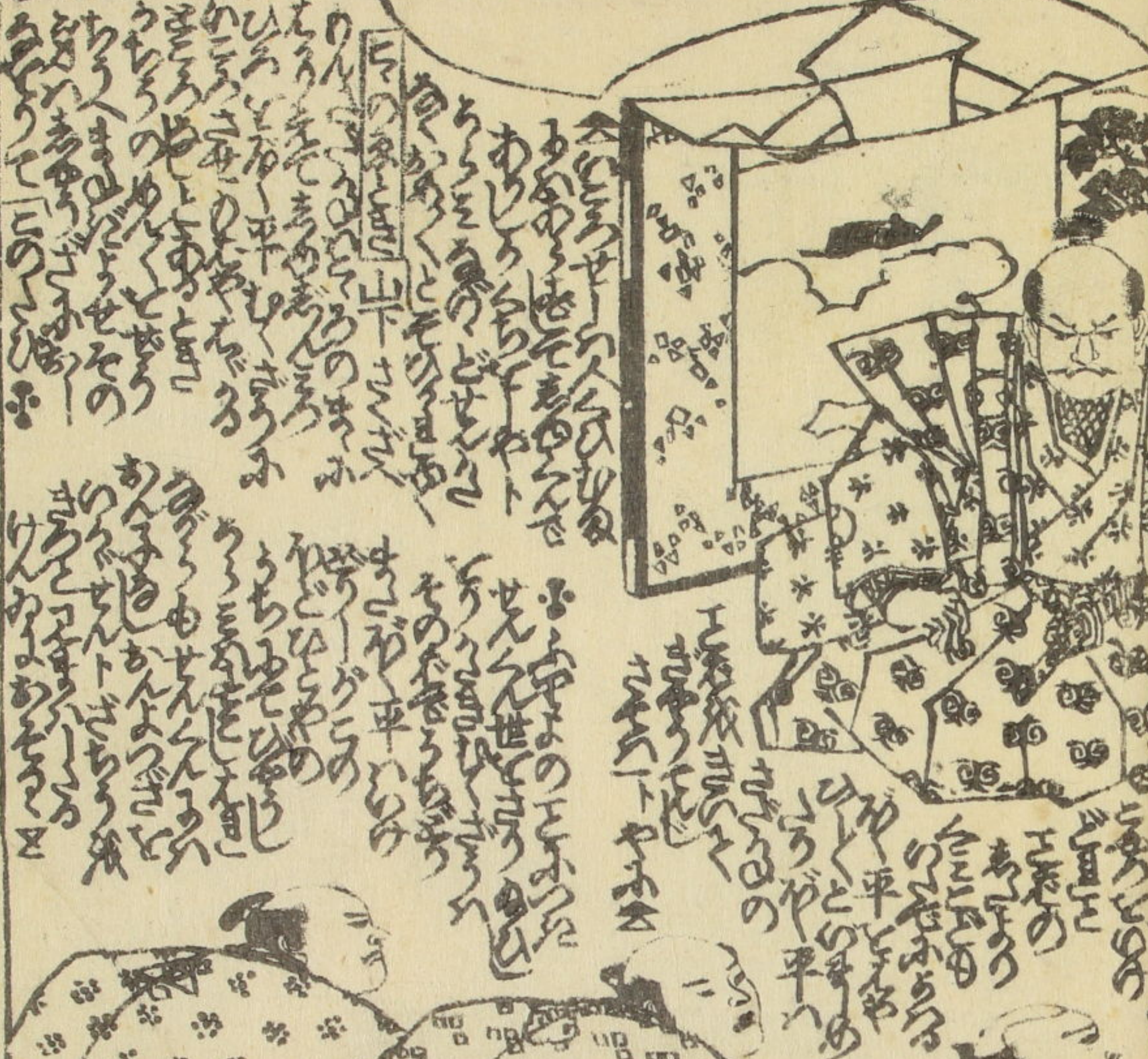
聖見不太郎
 受実が安房に
 起るに
 舟のり
 漕のり
 さらの安房を
 ぞむのむね

つたひしん... せんしん... の... せんしん...
 ひん... の... の... の... の... の...
 さ... の... の... の... の... の...
 さ... の... の... の... の... の...
 さ... の... の... の... の... の...





この山は下りて...
あつちの山は下りて...
あつちの山は下りて...
あつちの山は下りて...
あつちの山は下りて...



あつちの山は下りて...
あつちの山は下りて...
あつちの山は下りて...
あつちの山は下りて...
あつちの山は下りて...



六傳 刀編

麻呂
信時

安西 景時 連

信時



六傳 新編

信時

信時



つぎ氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社...

水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社...

水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社...

水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社...

水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社...

水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社...

水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社...

水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社... 氏元... 安西... 水信社...



弘化五 新板

喜水作
圖考



かな
讀

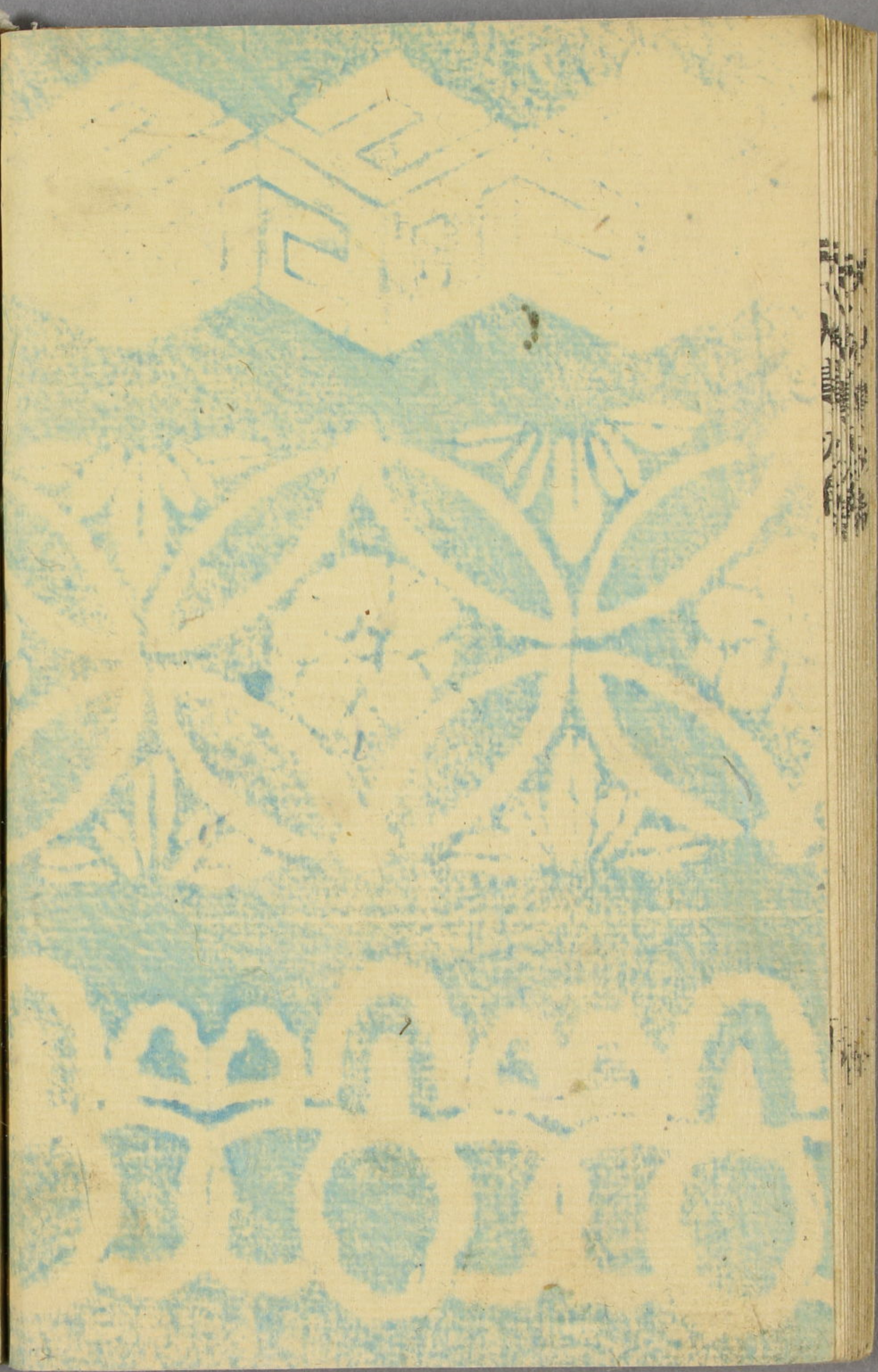
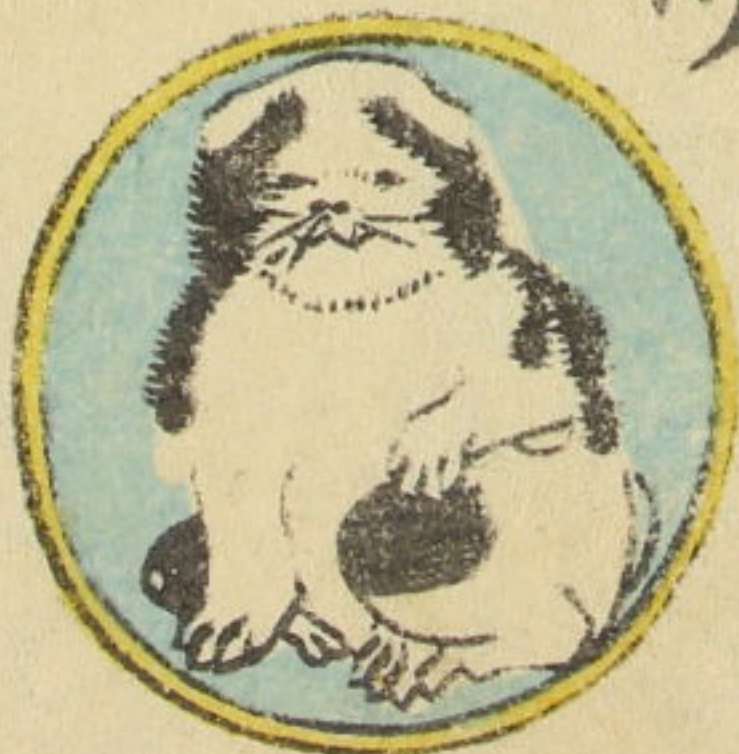


犬傳

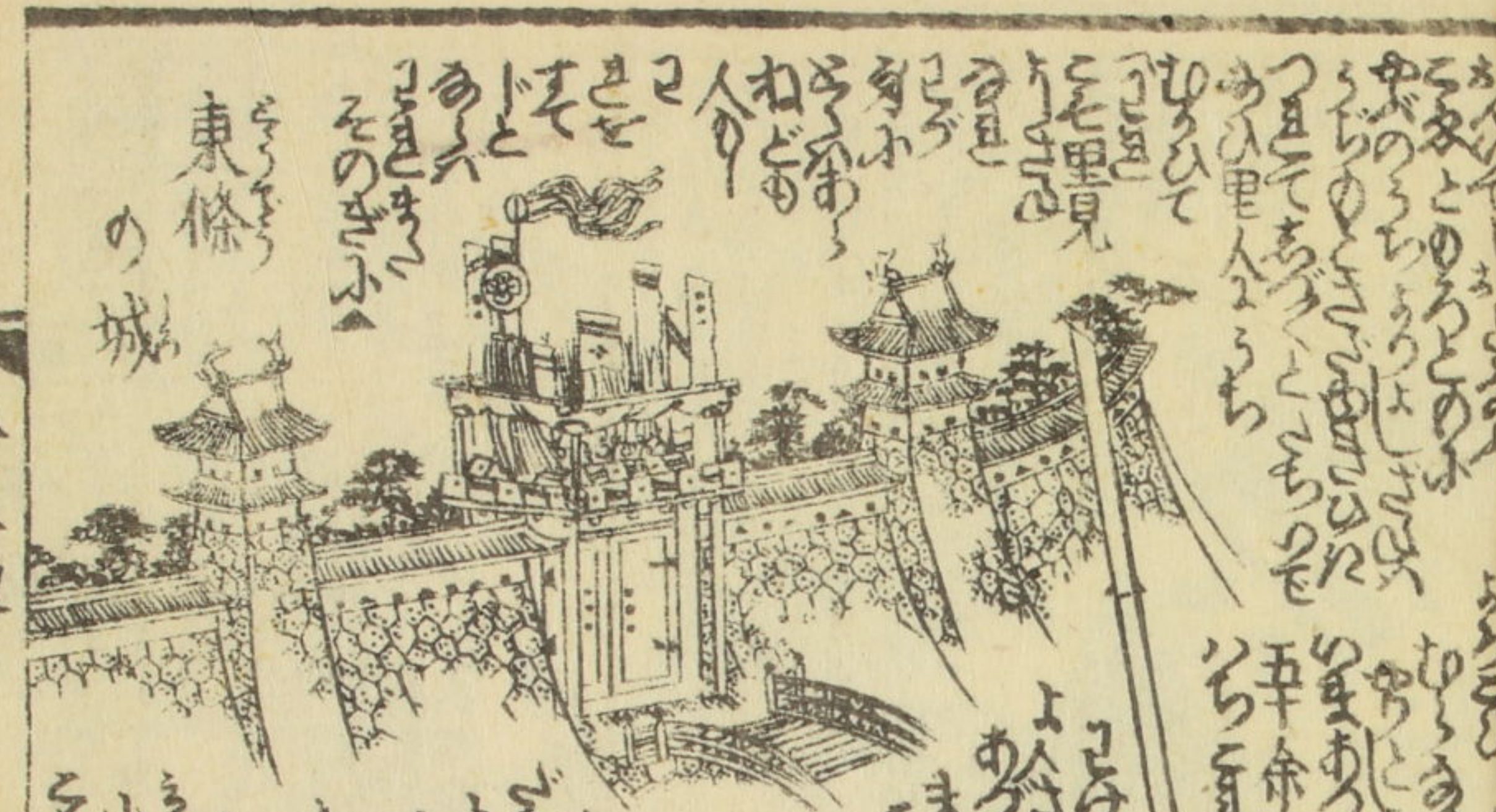


初篇
下冊

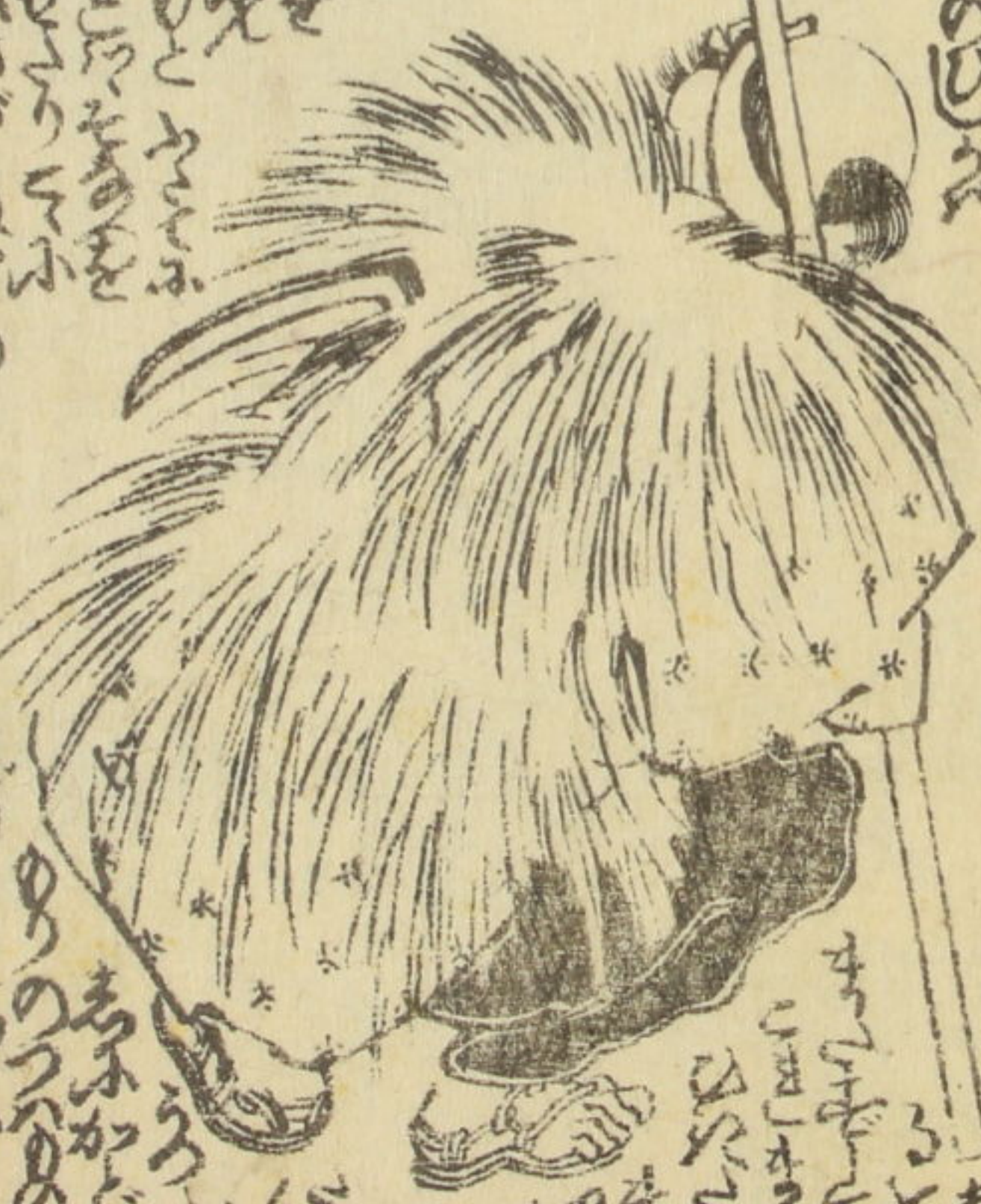
文溪堂



東條の城



東條の城... 城のまわりには... 城のまわりには... 城のまわりには...

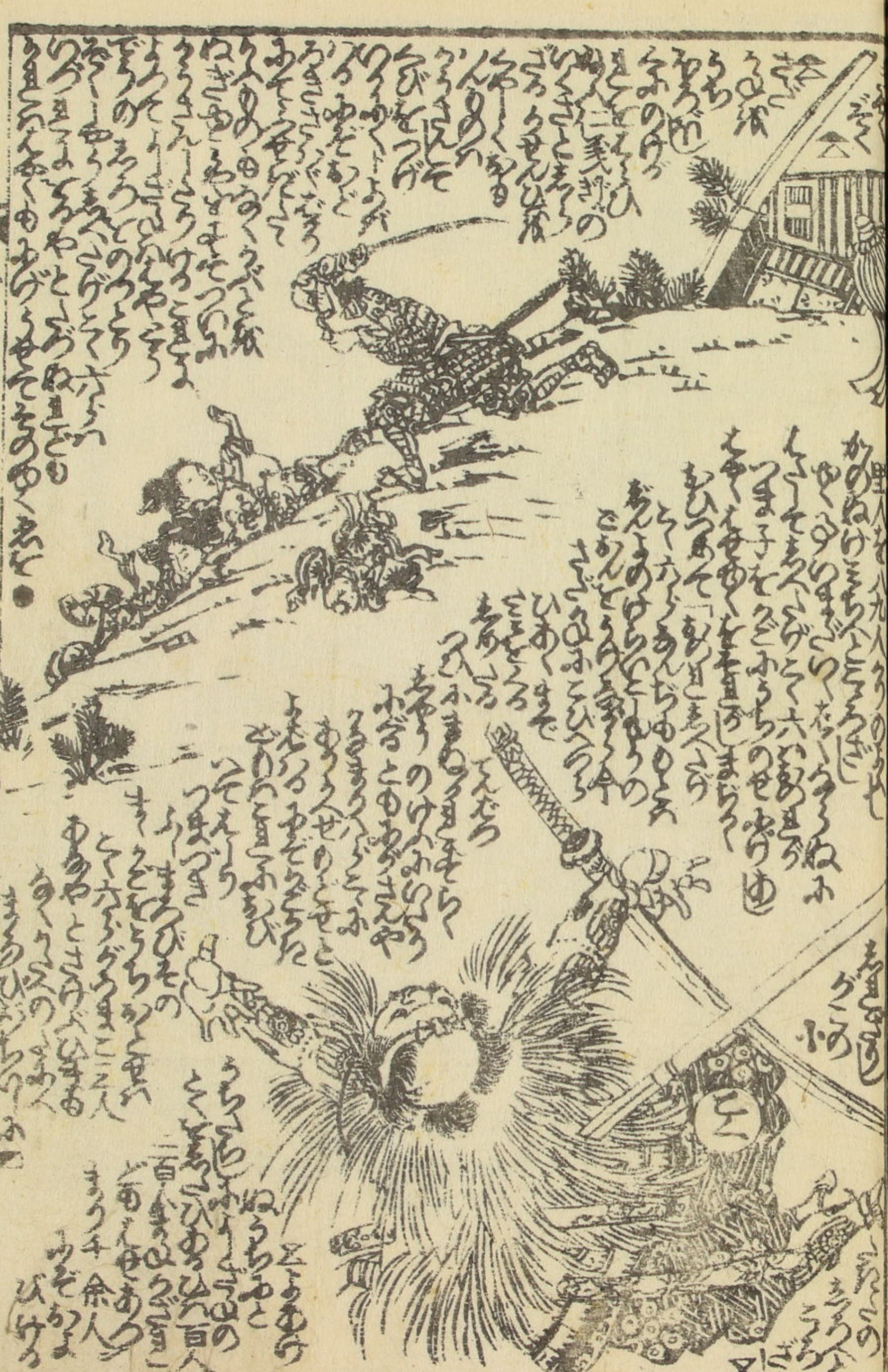


東條の城... 城のまわりには... 城のまわりには...

東條の城... 城のまわりには... 城のまわりには...



東條の城... 城のまわりには... 城のまわりには...



八犬傳

大軍... 平... 里見... 堀内... 東條...
 大軍... 平... 里見... 堀内... 東條...
 大軍... 平... 里見... 堀内... 東條...
 大軍... 平... 里見... 堀内... 東條...



大... 平... 里見... 堀内... 東條...
 大... 平... 里見... 堀内... 東條...
 大... 平... 里見... 堀内... 東條...

鳥の鳴き声は、
 空を渡る鳥の影、
 田舎の静けさを
 告げる。

東條の屋敷に
 静かに暮らす
 人々の生活。

鳥の鳴き声は、
 空を渡る鳥の影、
 田舎の静けさを
 告げる。

東條の屋敷に
 静かに暮らす
 人々の生活。

大傳

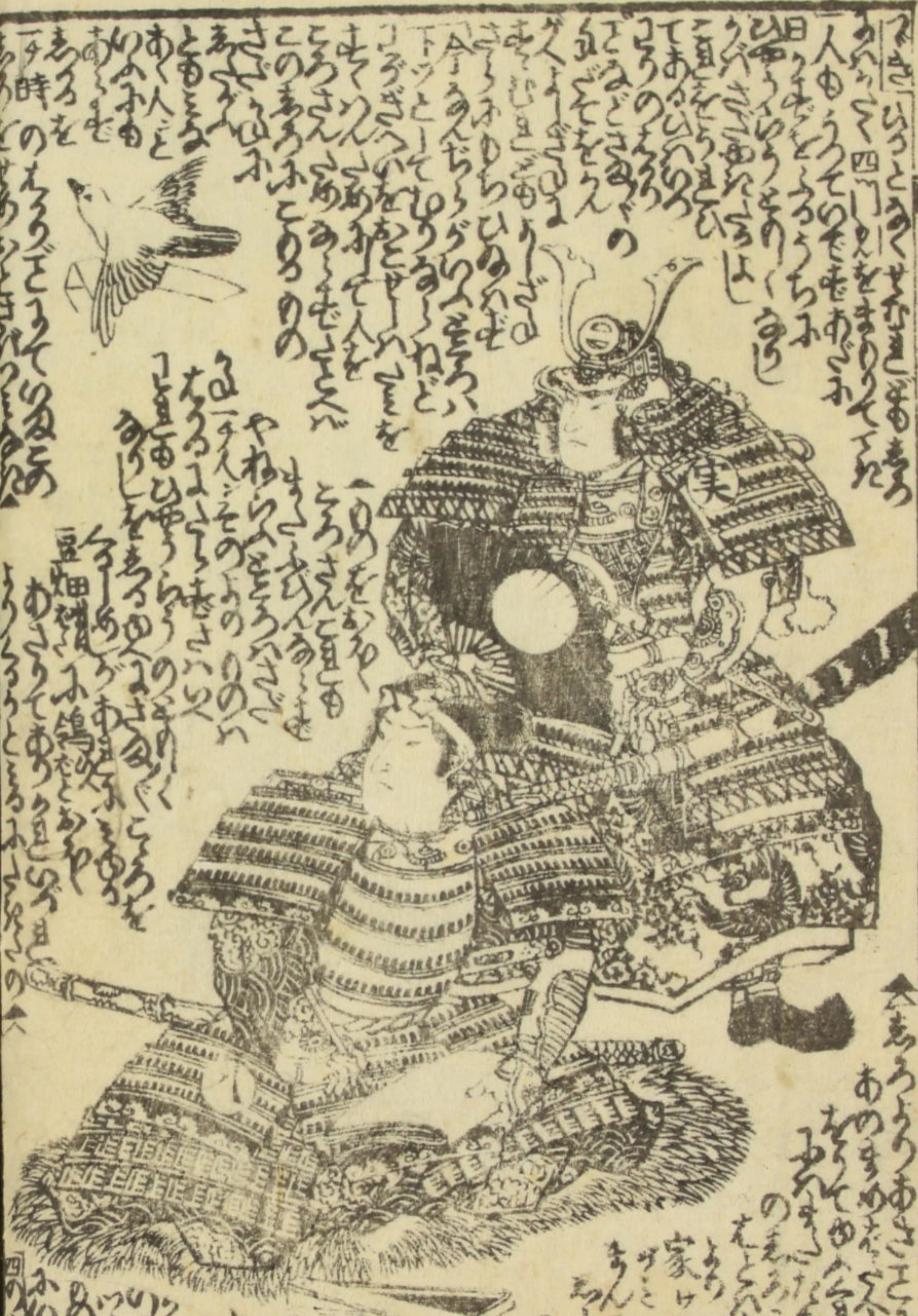
十六

鳥の鳴き声は、
 空を渡る鳥の影、
 田舎の静けさを
 告げる。

東條の屋敷に
 静かに暮らす
 人々の生活。

鳥の鳴き声は、
 空を渡る鳥の影、
 田舎の静けさを
 告げる。

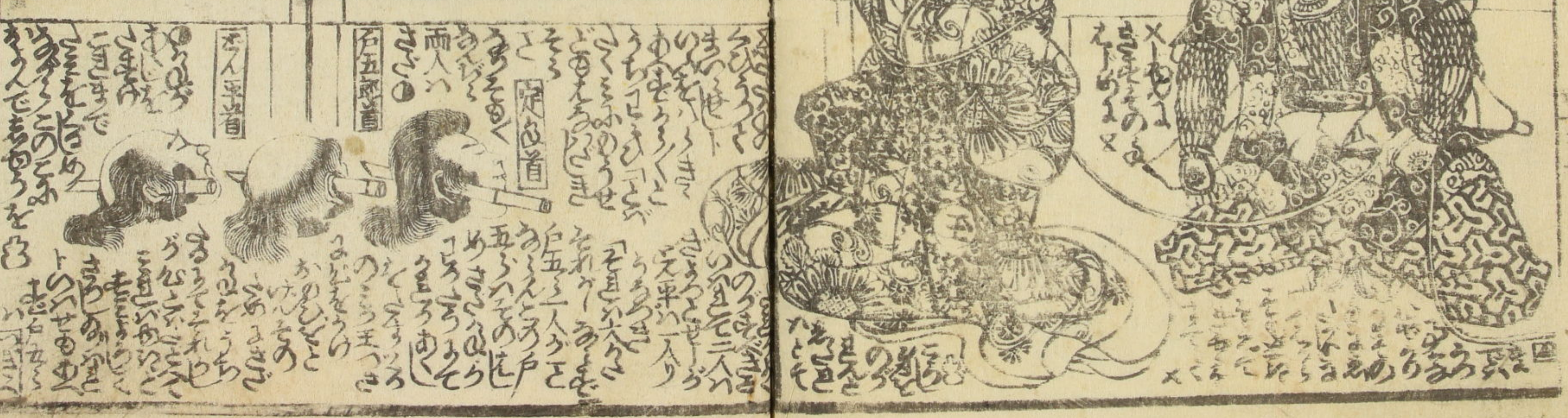
東條の屋敷に
 静かに暮らす
 人々の生活。



大傳

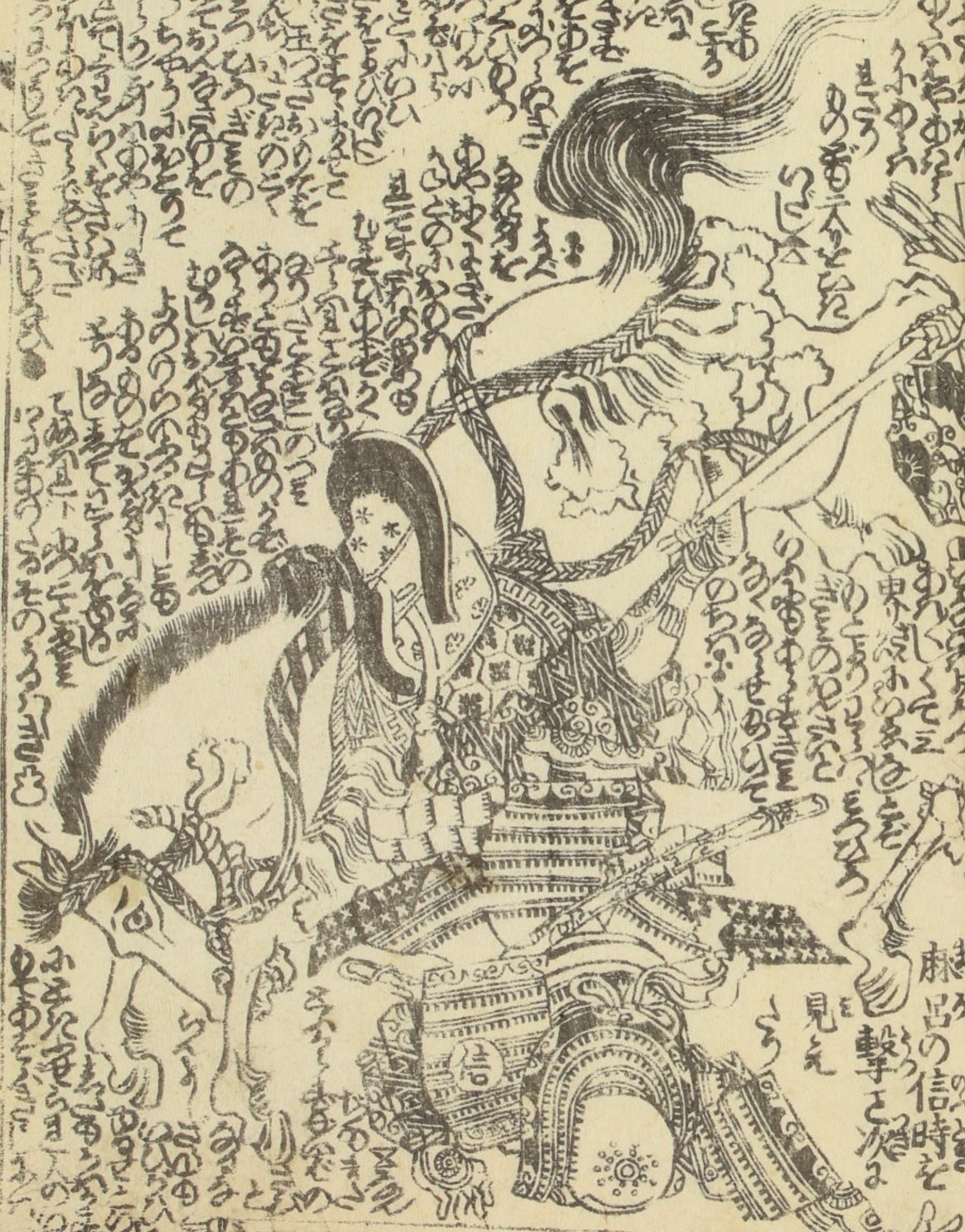
十六

Handwritten text at the top of the page, including the characters "平受ト" and "よあ".

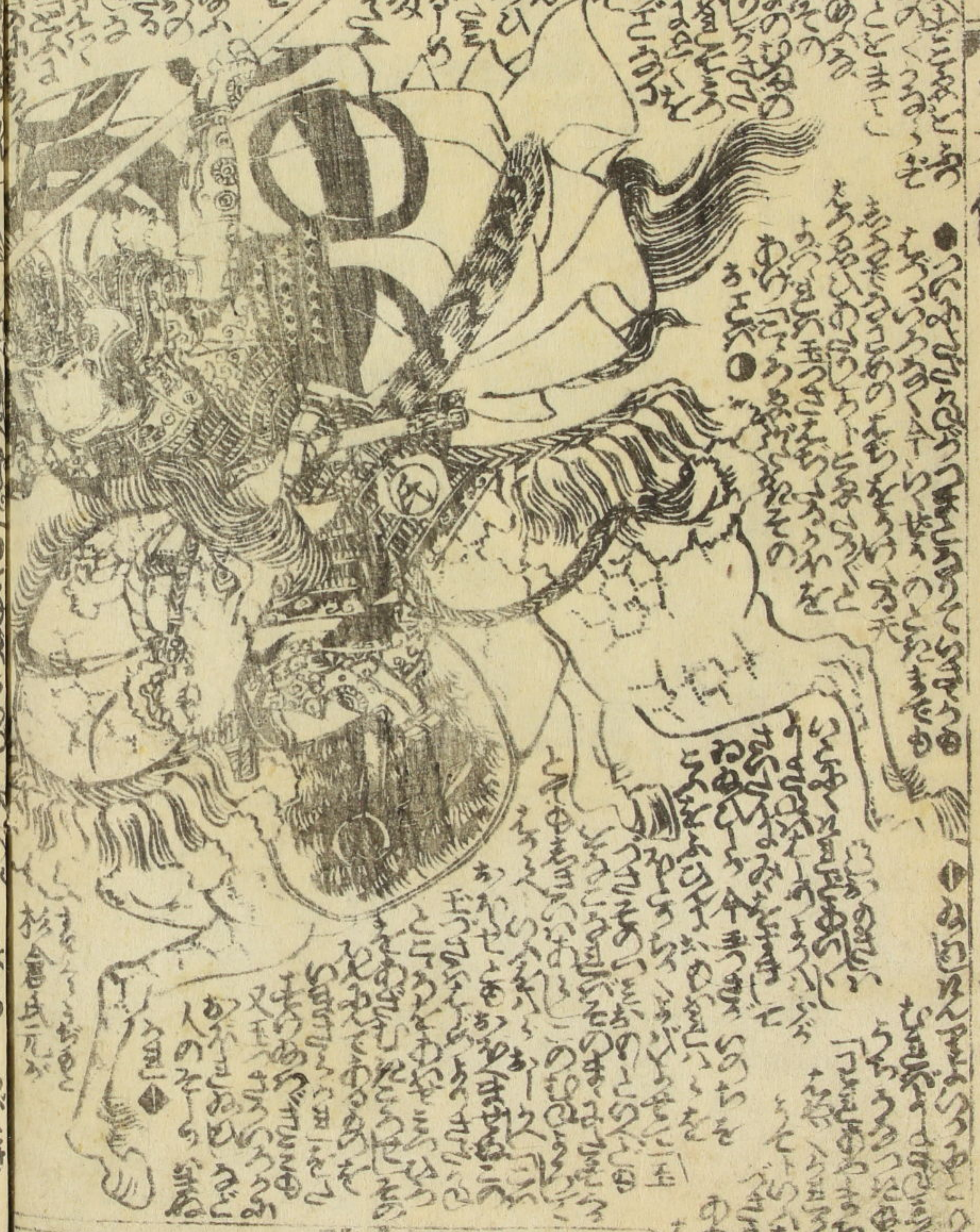


Handwritten text at the bottom of the page, providing commentary or descriptions for the illustrations above.

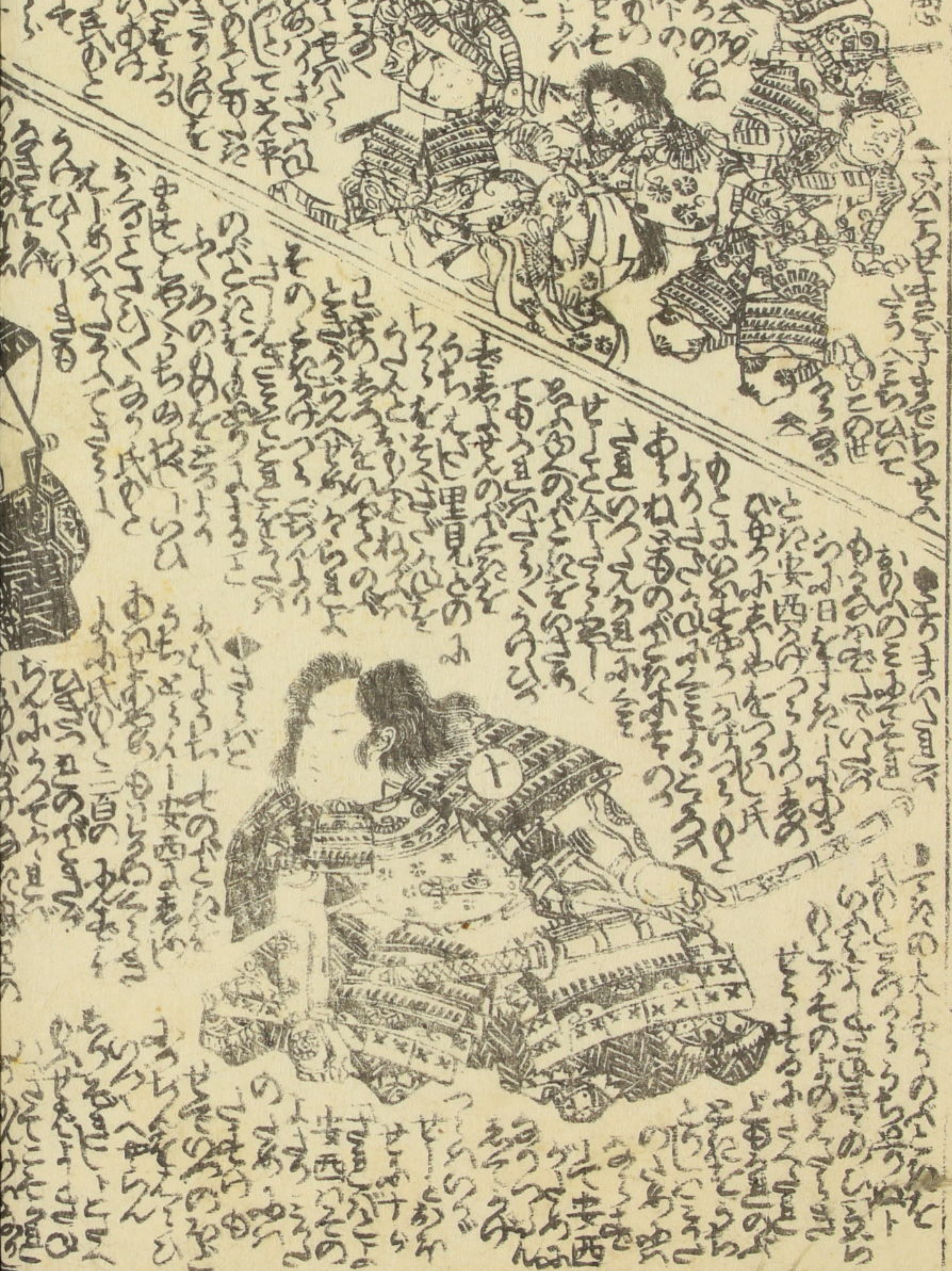
Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or transcription of the scene below. The text is dense and covers most of the page area.



Handwritten text in vertical columns, continuing the commentary or transcription from the left page. The text is dense and covers most of the page area.



Handwritten text at the top of the page, likely serving as a title or introductory text for the illustrations below.



Handwritten text at the bottom of the page, likely providing commentary or a conclusion to the illustrations.

Vertical text on the left page, including the characters 屋吉 (Ichiyoshi) and other illegible characters.

一勇齋國世方画



八十八

三十一



